

## 故松井前会長様に励まされた思い出

八田知昭

520-1511 高島市新旭町薬園2060

私は、1950(昭和25)年の春、滋賀県庁林務課に就職し、造林事業や治山事業に従事してきましたが、1970(昭和45)年、野生鳥獣の保護と狩猟関係の事務事業を担当することになりました。

その後、国には環境庁が新設され、その指導のもと、地方でも様々な自然環境保全の行政が始められました。例えば、琵琶湖の水質保全のための粉石鹼運動、ごみの投げ捨てノーポイ運動、湖周辺の修景美化等、新しい様々な取り組みが始められました。そのなかで、琵琶湖全域の鳥獣保護区指定計画もその一つでした。

しかしながら、琵琶湖は、古くから関西での著名なカモ撃ち猟場であり、冬季の観光上にも支障ありと、さまざまなご意見があり、指定反対の電報が沢山寄せられる有様で、連日沿岸の関係先や団体等へ、理解と協力を求めて奔走していました。

そんななか、昭和46年の初秋の頃だったと記憶していますが、たまたまマイカーのラジオにて松井前会長様のハクチョウのご講話が連日放送され、大変感動したことが記憶に残っています。そのお話は、保護区の設定業務に大きな力を与えて頂きました。

そして昭和48年に発足されました日本白鳥の会に早速入会させていただき、各地の愛鳥事例や学術的なお話を承るなどのほか、白鳥の会会報にご登載のよき事例が非常に参考になり、有り難いことでした。そして、現地研修会におきましても、いろんな方々からご経験の貴重なお話等をご教示いただくことができまして、有難いことでした。



図1. 滋水田のハクチョウ。

また、昭和56年4月には、白鳥の会から滋賀県知事あてに、琵琶湖鳥獣保護区の継続指定に関する陳情書を頂き、同年7月に知事名で引き続き保護区として水鳥の保護を図って行くことを、会長様宛にて回答させていただいたところではありますが、この陳情書は、賛成意見表示の少ないなか、事務関係者一同大変力づけられたものでした。

そして、昭和61年の1月に、第10回現地検討会を琵琶湖の北西部今津町地先(現高島市)で開催させて頂きました時には、不便な所にもかかわらず全国各地からご参加を賜りまして、無事に、そして有意義に過ごさせて頂くことが出来ましたことも、印象に残る所であります。

この検討会は、琵琶湖の鳥獣保護区の設定によって、コハクチョウの飛来数が年々増加し、約200羽となってきた姿を皆様方に見て頂くよい機会でもありました。

いつか松井先生は、琵琶湖の広さから考えてみて、今後の環境保全のあり方次第で、飛来数が5000羽は見込まれるのではと、お話し下さったことがあります。

まだまだその数値に至っておりませんが、現在のところ、湖北野鳥センターと、国の湿地センターが設置されています湖北地方、その対岸に当たる高島市の水鳥観察センターが所在する湖西地方、そして琵琶湖大橋以南の草津市地先の以上3地域が飛来の拠点となっており、各地点ともそれぞれ行政側を地元の方々の大変なご努力、そして愛鳥・自然観察愛好者のご支援のお陰によりまして、優雅な姿が毎年度見られるようになりました。

その後、平成4年7月に、県のヨシ群落保全条例が施行、翌5年には琵琶湖がラムサール条約の指定湿地に登録され、野鳥保護のみならず、環境保全の機運が一層高まってきましたことは、大変喜ばしいことでした。

そんななか、平成13年12月、琵琶湖のほとりでは、2回目となります本会の現地研修会、そして翌日には総会が開催されました。この意義深い会合には、地元の皆さん方が今日までの成果の発表や、さまざまなアトラクションまで企画していただき、全国各地からお集まりいただいた会員の皆さん方に、竹生島をバックにした水鳥の姿とともに、印象深い会合であったこととおもいます。

近年、地球温暖化防止をはじめ、自然環境保全の気運の高まりが、いろいろ見聞されますが、水鳥をはじめ野鳥の存在は、大きな指標とも言えそうです。

白鳥を例に挙げますと、湖北地方では、旧の内湖が復元されたビオトープとその近辺でのコハクチョウの観察ができるようになりました。一方、湖西地方におきましても、湖岸近くの乾田化された圃場の一部に飛来が見られ、農家のご厚意で一部に湛水していただいた結果、平成15年1月から2月まで、約100羽のコハクチョウが定着、夜には琵琶湖へと帰る情景が見られました。同年の秋11月、同じ仲間と思われる姿が同地で観察されました。しかし、農家のご理解も12月には芽が伸び始めた麦作との関係からそこまで、12月初旬以降、同地域の圃場での姿は見られなくなりました。

幸い、今紹介しました事例の田園と安曇川を隔てて左岸地帯の一部で、農家のご厚意による冬季の水鳥のための本格的な湛水田が設けられ、コハクチョウの姿を見ることができるようになり、有り難いことです。このような環境保全の姿が農家のご理解

で各地に広がって行くことを望みたいものです。

前会長様が、ご研究ご経験されてこられました数々のご業績をもとに、まだまだご指導を賜りたかったことを思うとき、返す返すも残念でありませんが、今日までの温かいご指導、ご鞭撻に心から感謝申し上げるとともに、琵琶湖を中心としました湖国へ5000羽のハクチョウたちの渡来を夢みつつ、ご冥福をお祈り致します。

平成17年初夏